

# 25周年によせて

## 生活健康課課長



25年のうちの12年ほどをここで働かせて頂いています。私が移動になった頃とくらべて、利用者の方達の様子やデイの運営方法などずいぶん様変わりをしました。

特養からデイに移ってきて、実際に地域で暮らす方の生活を垣間見させて頂くことはとても勉強になりました。住むこと・食えること、それに付随するいろんなことが課題としてあがってきて、人が生活していくことの煩雑さと、だからこそ得られる豊かさというものをひしひしと感じています。何気ない生活が実はものすごく多くの事柄と結びついて成り立っているという事は、一つサービスを変えただけで生活のリズムが変わってしまい利用者の方の負担になるということであり、そんな負担を感じさせないように努めることがこの仕事の醍醐味でもあるように思います。

「お風呂の着替えを用意する」、そんなことも他人が代わってしようとするれば複数の人間の間に確認やら打ち合わせやらが必要になります。そのようなことがご本人が自分の手足を動かすようにスムーズにできたら、そう思っていただけならというのが理想です。私にとって介護の仕事は芝居の「黒子」と似ています。

「黒子」として人の生活を影で支える。その修行をこれからもしていきたいと思います。

